

## 次勤務確認票を相互に 確認するのは何でやねん？

先日、組合員が、退出点呼で当直助役と次勤務を相互に確認し、退出点呼を終えました。その後、組合員は総務科に用件あり出向くと、東野総務科長が、別件で、「これから出向の面談を行います」と告げました。急に言われた組合員は、「都合が悪いので帰ります」と伝えました。すると東野総務科長は、組合員に「次勤務は、日勤にします」と一方的に通告しました。一方的な勤務変更にも関わらず、相互確認も復唱もされませんでした!!

組合員から次勤務確認に対する会社の取扱いに不備があると報告があり、組合窓口の今田業務部長から関西支社に抗議しました。しかし、支社窓口からは「状況がわからない。いいか悪いか別として組合の意見は聞きました。」との回答でした!!

そして現場の大二運所当直に次勤務確認票の重要性を確認したところ、当直成宮助役は「確かに次勤務確認票で次勤務を確認するようになっています。」と次勤務確認票の重要性を答えました。

本来は、改めて指示するなら退出点呼での次勤務確認票を廃棄し、差し替えて渡さなければなりません。電話確認の場合でもお互い相互に確認し、復唱します。しかし、全くそのような相互確認を怠った会社を絶対に許すことは出来ません!!

**次勤務確認票の重要性を全く認識していない  
東野総務科長は、当該組合員に陳謝しろ!!**